

植物多様性センターの「植物の芽ばえ」

日本列島の温帯域に分布する野生植物の多くは、発芽に種子の休眠打破を必要とします。秋に播種した種子は、冬の間一定の低温にさらされることによって、徐々に休眠が破れ暖かくなる春に発芽を始めます。センターでは、新しい植物の導入や既存植物の更新・増殖の目的で、毎年数十種類以上の種子をまいています。この春、発芽を始めたばかりの植物の芽ばえをご紹介します。



サワギキョウ:キキョウ科らしい
葉の細い小さな子葉



ヒメキンミズヒキ:柔らかな産毛
の生えた大きなバラ科の子葉



キクタニギク:キク科の特徴の
わかる楕円形の子葉



カワラスゲ:単子葉植物の特徴
の緑色の針のような子葉